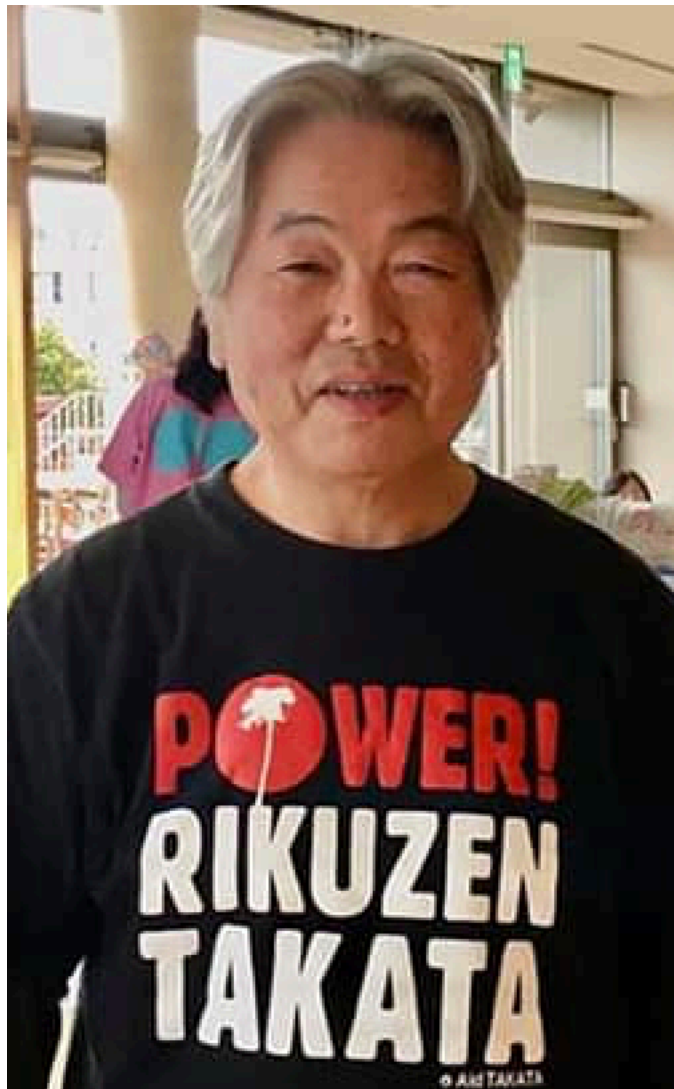


武田恒男さん
東日本大震災の
写真

アウトライン

- 武田さんの紹介
- 岩手県陸前高田市とその周辺の地図
- 震災直後の様子
- 震災後の様子（3月12日以降）
- 近くの地域の様子
- 避難されてからの様子
 - 避難所
 - 救援物資
 - 全国からの支援
- あとがき



武田恒男さん

1950年4月生まれ

東日本大震災発災の時、陸前高田市に住んでいらした。

震災後、2011年4月17日に妹さん一家が住んでおられる町田市に避難され、現在も町田市に在住。

震災前後から、趣味の写真を生かして、街の様子などを撮影されていた。

写真保存をしようと思ったきっかけ

玉川大学教育学部臨床心理学ゼミ（原田眞理教授）主催の講演会で、武田さんの講演を拝聴した。その際たくさんの写真を提示しながら、震災当時の様子をお話くださった。

震災後の陸前高田市やその近くの地域の様子の写真は、言葉とは違う強い印象が残り、津波被害を実感した。

今後教員になった際に、自らの行う防災教育に是非これらの写真を入れたいと考え、武田さんに写真の使用をお願いした。

また貴重な写真を公開して、後世に残したいと考えた。

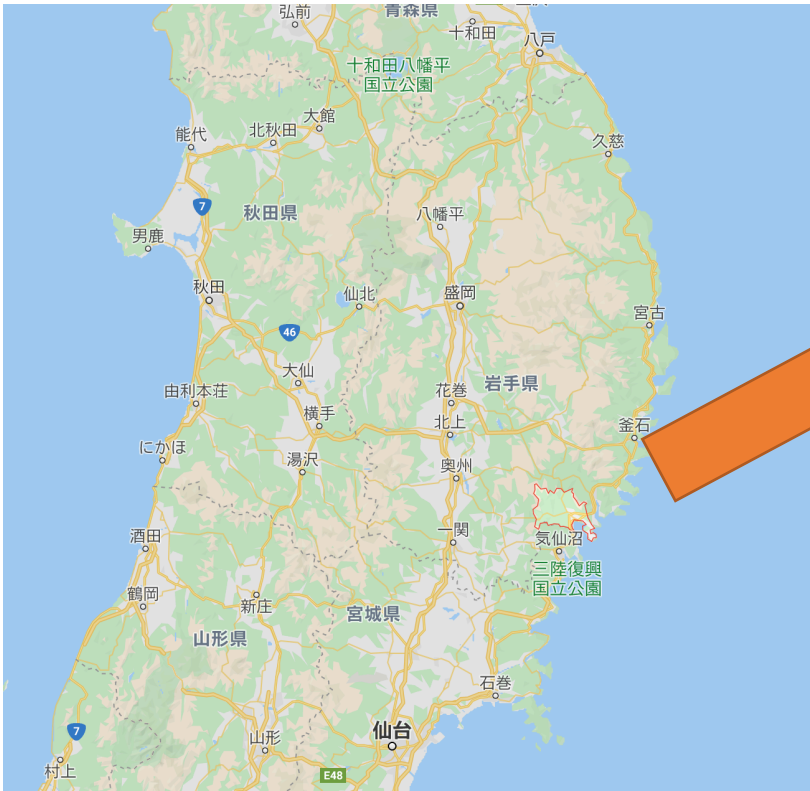
その気持ちをお伝えしたところ、武田さんからご快諾をいただき、原田ゼミの有志で作業をした。



2020. 6 zoomにて学生と作業中

陸前高田市とその周辺の地図

岩手県陸前高田市とその周辺の地図



Google Mapより

岩手県陸前高田市の地図



Google Mapより

震災直後の様子

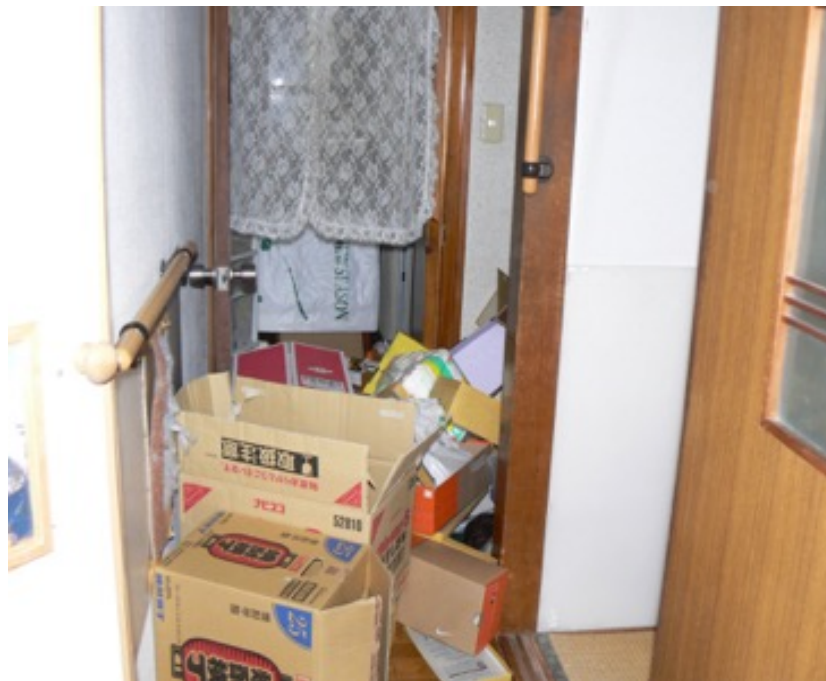
地震が起きた直後の 家の中の様子 2011.3.11

地震が起こった直後の武田さんの家の様子。

階段などには二階からの荷物が落ちてきていたり、置いてあった靴なども箱ごと落ちてきた。

写真には台所などの様子も含め、ものが散乱している様子が映されている。

(解説文はすべて武田さんからお聞きしたことをまとめたものである)



米崎中学校に避難して 数分後の様子

この写真は米崎中学校のグラウンドから見た様子。

流されている家の中から「助けて」という人の声が聞こえたが、そのままいなくなってしまった。

武田さんの叔父さん叔母さんのお家もこの近くにあった。

上から家が流されるのを呆然と見るしかなかった。



米崎中学校に避難 して数分後の様子

写真の右側の方に山が見えるのだが、その向こう側は気仙沼。夜になった時に、その山の方角、気仙沼の方がとても明るかった。情報が全く入らなかったために、後になって知ったが、その時気仙沼では火事がひどかったそうだ。



米崎中学校に避難して数分後の様子

津波が来ると思い、避難して米崎中学校に行き、そのグラウンドから撮った写真。

津波で家がどんどん流されている様子。

このグラウンドの下の方は住宅がたくさんあった場所だった。津波でも流されたが、引き波でどんどん家が流されていった。

水かさもかなり増していた。



2011/03/11 15:44

米崎中学校に避難して数分後の様子

武田さんの叔父さんの一家では、叔母さんがまだ避難所に来ていなかったため、叔父さんが迎えに行ったが、そのまま家族全員流されてしまった。

靴を取りに行ったり、上着を取りに行ったり、一度家に帰ると欲が出ていろんなものを持ってくるために時間がかかったのかもしれないが、家に戻った人は皆、流されて戻ってこなかった。



米崎中学校の様子

一度は皆、米崎中学校の体育館に避難したが、地割れ（地層のずれ）があることがわかり、教室の方へ移動した。

後々、ここは遺体置き場になった。



震災後の様子

—3月12日以降—

街の様子 2011. 3. 12

米崎中学校のグラウンドから
撮影。水が引いた後の様子。

車のクラクションが鳴りっぱ
なしだった。



街の様子 (日付不明)

米崎中学校のグラウンドから撮った街の様子。



街の様子 2011. 3. 12

この辺りには、
キャピタルホテル
という陸前高田で
一番大きなホテル
があった。

写真に「セルフ」
という看板がある
が、このへんまで
水が来たという印
がつけてあった。



奇跡的に残ったセルフ陸前高田の看板津波水位15.1M」
の文字が記された（セルフ陸前高田HPより）

道の駅の看板の様子 2011. 3. 12



雇用促進住宅

2011. 3. 12

国道45号沿い、5階建ての雇用促進住宅の建物なども残っていた。

この状態で残っていたが、4階まで水がきていたことがわかる。

雇用促進住宅！



街の様子 2011. 3. 12

米崎中学校のグラウンドから見た、水が引いた後の様子。



街の様子

2011. 3. 12

警察や消防団の人たちは、車を誘導したり、住民を避難誘導して自分たちが最後に逃げたため、逃げ遅れてしまった。

写真は流されてしまったであろうパトカー。



県立高田病院の様子 2011. 3. 12

高田病院は昔、チリ地震津波の際に同じ場所で被害（床上浸水）にあったことがある。そのまま同じ場所で診療していた。

市役所や避難場所、体育館もみな平地であつたから、逆に危なかった。



大津波警報の看板 2011. 3. 12

道路には大津波警報が出ている。

その奥に写っている米崎小学校
に後々みんな避難した。

武田さんは震災から2日後に
米崎小学校に移動した。



竹駒町の様子 2011. 3. 16

竹駒神社などの様子。

竹駒神社入口付近

2011/3/16 9:27

竹駒町



市街地の様子 2011. 03. 21

地震が起きてからなかなか市街地の中に入ることができなかった。

金庫泥棒などが来ていた。

写真では信号が倒れている様子も見える。



武田さんの家 2011. 3. 21

周りの家は跡形もなかったが、武田さんの家のお風呂場だけ残っていた。



武田さんの家から 見た高校 2011. 3. 22

普段は全く見えなかった高田高校が見えたという様子。

もっと遠いと思っていたが、そうではなかったと感じた。

お風呂場の手前に見えるのが4畳半から6畳ぐらいの掘りごたつだった。そこに武田さんのお父さんのゲートボールでのトロフィーなどが入っていたのを見つけた。



商工会議所の様子

2011. 3. 22

写真は、会議所の様子。



清風堂（ケーキ屋） （日付不明）

一番上の丸いところに、このケーキ屋
さんの方と、高田高校の生徒さんがそ
こにいて助かった。



2011. 2 武田さん撮影の清風堂

米崎中学校 付近 (日付不明)



右の写真は、米崎中学校の体育館が映っている。
地震直後に避難し、グラウンドから撮影していた
場所。
右側写真の車のあたりまで水があった。



スーパーの様子 (日付不明)

MAIYAという地元のスーパー。

震災前のスーパー



<http://konkatu346.blog88.fc2.com/blog-entry-68.html>より



体育館の様子 (日付不明)

武田さんが地震後、しばらくしてから訪れたところ。

この体育館は避難所だったため、この近所の人はこちらに避難していた。だが、中では天井の近くまで渦巻き状に水が入り、高校生2人だけが助かったそう。一番上の方で鉄骨にすがりついて助かったそう。

武田さんの近所の方も、車がない人はここに避難していたが、助からなかった。



国道の様子 (日付不明)



自衛隊の方が作ってくれた道

国道45号の様子 (日付不明)

左のほうに見える建物は、
海と貝のミュージアムとい
う新しい建物だった。



リニューアルした 野球場 (日付不明)

リニューアルして、
照明をつけたりして
いた野球場。

そろそろこけら落と
しをやるのかなと
思っていたようなと
ころだった。



気仙中学校

気仙中学校 (日付不明)

陸前高田にある気仙中学校の様子。

震災後の今でもまだ残っている。



コミュニティ センター 2011. 3. 30

各地域にあるコミュニティセンター。

そこに各県の総合病院や大学病院からお医者さんが来てくれた。

お薬手帳を持っていなかったため、何の薬を服用していたかわからなくなってしまった。コピーなどで良いから常に持っていると良いと感じた。



陸前高田の 奇跡の一本松 2011. 4. 1

これがあるおかげで

陸前高田の知名度も上
がった。それで観光地
にもなった。

今はもう枯れてしまい、
現在あるのはレプリカ。



近くの地域の様子

気仙沼の様子 (日付不明)

陸前高田から30分ぐらい
南に行くとある。

気仙沼は宮城県だが、他
のところに行く時には通
るようなところ。



賀茂神社の様子 2011. 3. 31

気仙沼から陸前高田に行く途中にある
賀茂神社の様子。

この神社のところにある車を見たときは
衝撃を覚えた。

この車は津波によって流されてきたものの。

震災前の賀茂神社



<https://imachika.com/item/5a34693b23679c10c4ebbe22/>より



国道45号の様子 (日付不明)

気仙沼から陸前高田に行く
時に通った道の様子。



JR大船渡線の様子 (日付不明)

線路など跡形もなくなっ
てしまった様子。



大船渡市の様子 (日付不明)

武田さんの知人の家があった。

大船渡市の中でも地形によって被害の差があった。

陸前高田は全部流されてしまったのに比べて、大船渡市は残っていると感じた。

逆に残っている方が痛々しかったり、大変さを感じた。

船なども打ち上げられている様子が写真に写っている。



大船渡の住宅街に打ち上げられた船！



武田さんの勤めて いた着物屋

大船渡市にある呉服店の様子。



避難されてからの様子
—避難所の様子—

高田一中の様子

高田一中に衛星電話がきた。

地震が起きてから3日後ぐらいに、そこに行く途中で役所の車に拾ってもらった。車に乗っている人たちがマスクをみんなつけていた。

後から知ったことだが、原発事故のことがマスクをつけている原因だった。



安否確認

高田一中の避難所の様子。

安否確認で確認して、無事だったことなどを知る人も多かった。

携帯などは、その中継所に電気がこない
と機能しないことに気づいた。

携帯のラジオから情報が入るが、陸前高
田市は埋没してしまったので、そこからの
情報はなかった。

そのため、自分たちがどのような状況に
いるかわからなかったのが不安だった。



米崎中学校体育館 の張り紙

携帯などが使えないため張り紙などで
伝言を残していた。

米崎中学校から、米崎小学校に移動し
た人が貼っていた張り紙。

米崎中学校体育館の張り紙！

米崎小学校
に移動しました

衛星電話

住田町にある衛星電話が使えた。

衛星電話の数は地区によって決まっていた。写真の住田町では2台だったが、陸前高田では1台しかなかった。

また、住田町の先の遠野では携帯電話が通じる場所もあった。



避難されてからの様子
—救援物資—

ごまたまご

東京土産のごまたまご。

大船渡にあるかもめの玉子を作っている
工場で作られていたごまたまごが配られ
た。

地元のスーパーであるMAIYAで1つずつ
配られた。



初めての援助物資 2011.3.26

これは避難の15日目に届いた初めての援助物資。

武田さんは横田町にある親戚の家に避難されていた。

避難所には援助物資が来るが、家で避難している人にはなかなか援助物資がこなかった。

武田さんが避難されたところは、水やガス（プロパンガス）があったため、お米がもらえればそれを炊ける状況だった。

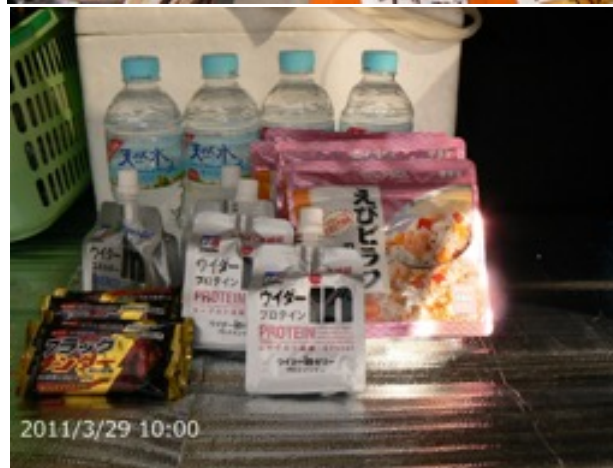


3/27~3/31 援助物資

だんだん援助物資が減ったりもした。

地元のスーパーなどで配られたものも
あった。

希望者には肌着が配られた。



4/1~4/5 援助物資



4/8~4/14 援助物資

韓国や中国からの援助物資
などもあった。



最後の援助物資 2011. 4. 15

武田さんは4/17には町田に避難された。

最後の援助物資

2011/4/15



2011.4.17に陸前高

田から町田へ避難！

避難されてからの様子
—全国からの支援—

応援の車 2011. 3. 21

西の方からの応援の車が多かったそう。



←滋賀県、京都府からの車

岐阜県からの救急車→



給水車

奈良県からの給水車



報道の車

2011. 3. 26

高田一中の体育館のところに全国から報道車がたくさん来ていた。

ある人にインタビューをしても後ろでみんな写ろうとしていた。



高田一中・報道車両

2011/3/26 10:07

自衛隊の車

自衛隊の方は、がれきを片付け道路を作ってくれたり、埋まっているご遺体などを探してくれたりした。

身近なところでは、食糧の運搬などもしてくれた。

自衛隊には助けてもらった！



大阪府警のパトカー
が長期間巡回！

大阪府警のパトカー

長い間、街中を見回ってくれた。

信号がなかったためその整備や、夜間に
泥棒などの見回りをしてくれた。



感謝の張り紙

武田さんが電信柱に感謝の言葉を書いたもの。

朝と夜に自衛隊や警察、ボランティアの方が通るため、その時にある紙で書いた。

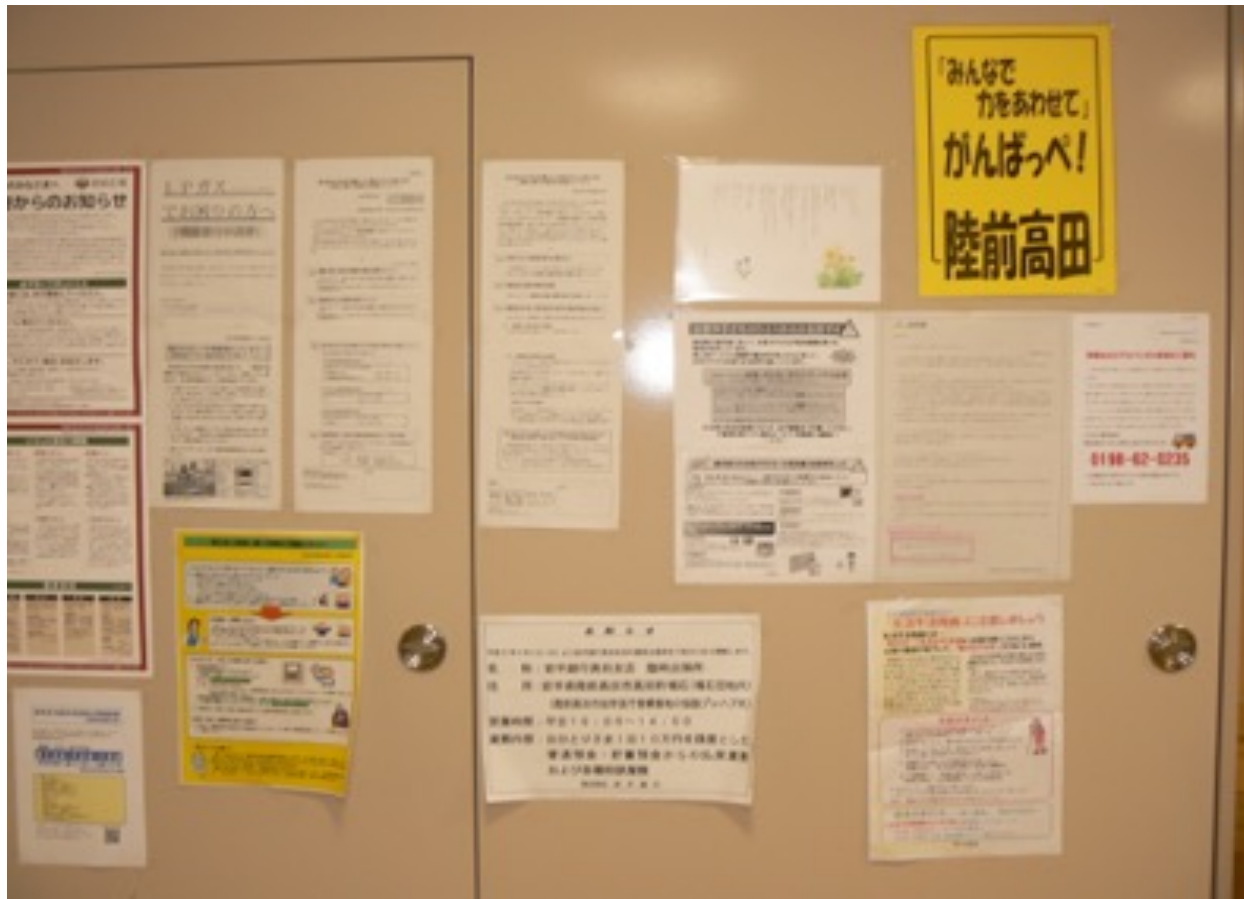
横田町の道路脇に感謝
の気持ちを書きました



避難所にあったメッセージ

高田一中の避難所の様子。

全国からメッセージが届いている。



あとがき

今回、武田さんから震災当時の様子についてお話を伺い、とても貴重な経験になりました。

東日本大震災当時、私たちはまだ小学生でした。テレビや新聞で流れてくる情報や映像を見ることしかありませんでした。今回、避難された時の様子を伺ったり、震災直後の街の様子の写真などを拝見したりして、実際にどのような状況だったのか知ることができました。このような機会がなければ、知らないことがたくさんありました。

武田さんの撮ってくださったお写真は、実際に震災を経験してない方、震災を知らない子どもたちにも見て欲しいと思います。きっと、写真を見ることで、災害の恐怖や復興の道のりの大変さが伝わるのではないのでしょうか。そして、実際に災害が起こったときに、自分の身を守るために参考になる部分も多くあると思います。

武田さんからお話を伺い写真をまとめることを通して、より多くの方に震災当時の状況を知っていただけるよう、語りついでいく一端を担えればと思います。

本作業が取材を受けました

2020年7月12日付けの岩手日報、日本経済新聞などに掲載されました

左側の写真のように、教室で武田さんから聞き取り活動をしていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のために、聞き取り活動が中断されそうになりましたが、Zoomを使用して完成することができました。

武田さんありがとうございました。



2020.1.16玉川大学にて



2020.6.22 zoomでの活動

聞き手・編集

玉川大学教育学部原田ゼミ4期生

有志：

佐藤 雄太郎

三浦 南斗

山重 恵美

指導教員：

原田真理

2020年10月作成



個人の使用は自由ですが、内容は改変できません。

本冊子を使用したり内容を引用したりする場合は、引用元を必ず明記してください。

非営利目的での使用を許可します。

©玉川大学教育学部原田ゼミ

